

話題

当院元副院長 真里谷 靖先生が、在職中の2019年11月23日に開催された日本放射線腫瘍学会第32回学術大会において優秀教育展示賞を受賞されましたのでご紹介いたします。

JASTRO-2019

去勢抵抗性前立腺癌多発性骨転移に対する外照射併用 Ra-223 内用療法の治療成績

Outcome of combined external beam radiotherapy and Ra-223 radionuclide therapy for CRPC with multiple bone metastases

むつ総合病院 放射線科 真里谷 靖、泌尿器科 吉川 和暁
弘前大学大学院 保健学研究科 門前 暁、千葉 満

【目的】

去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) 多発性骨転移患者に対する外照射併用 Ra-223 内用療法 (EBRT&RNT) の治療成績を報告した。

【方法】

対象は2016年8月～2019年4月にEBRT&RNTを加えた多発性骨転移以外の臓器転移を認めないCRPC患者10例。年齢は49-82歳、PSは0-1。EBRT併用は、強い疼痛、しびれ、顕著な骨破壊や周囲軟部進展、原発巣非制御などを考慮し決定した。EBRTの標的は前立腺原発巣と骨盤転移巣が6例、さらに腰椎、腰椎～胸椎を加えたものが4例であった。RNTはRa-223を55 kBq/kg/回を4-5週間隔で3-6回投与、grade 3以上の骨髄抑制をみた場合投与終了とした。全例でホルモン療法、骨代謝修飾薬とWHO方式に拠る鎮痛剤投与があり、6例ではタキサン系薬剤等による化学療法が前治療として施行された。

【結果】

- 1)10例中6例が現存し、Kaplan-Meier法による平均生存期間は 23.6 ± 3.3 ヶ月（平均±標準誤差）と良好であった。
- 2)平均無増悪生存期間は 19.1 ± 2.5 ヶ月であった。
- 3)治療終了時の疼痛レベルは全例で改善ないし不変であった。NRS中央値(範囲)は治療前2(0-6)から治療後0(0-2)に低下し、死亡例を含め疼痛コントロールは全般に良好であった。
- 4)死亡した4例中1例は、RNT3コースの後に急速な多発性肝転移、骨転移再増悪、DIC発現を来し腫瘍死に至ったが、化学療法の影響など予想外に速やかな転帰に至った因子や機序の検討が必要と考えられた。

【結語】

EBRT&RNTは、適応となる患者の生存期間延長およびQOL改善を期待できる治療法と考えられた。

